

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700018		
法人名	有限会社 富士建設		
事業所名	グループホーム ありがとう		
所在地	兵庫県美方郡新温泉町七釜 329-1		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山・川・海・温泉と自然の恵みにあふれた環境のもと、生活をさせていただいております。スタッフは長年勤めてくださっている方がほとんどで、心配なこと、不安なこと又希望などを受け止め、可能な限り対応させていただきよう努力させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigovsvoCd=2894700018-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年2月28日

温泉を活用され、くつろぎ楽しめる入浴支援が提供されています。利用者個々の意向や思いを大切にされており、個別支援を基本とした対応に配慮されています。職員も定着しており、利用者との和気藹々と家族のように過ごせる雰囲気作りに努められています。職員同士も気兼ねなく、お互いが助け合いながら、利用者が快適に過ごせる施設運営が出来るよう努められています。感染症対策に留意しながら、散歩や近隣の外部へ出かける機会の確保や、職員外出時に同行をお願いするなど、可能な範囲の外出機会を増やすことにより、季節と外気に触れる機会の創出に努められています。地域の方々と触れあう機会を意識されており、地域に根ざした施設運営が図られています。利用者が生活の場として、楽しんで過ごせる施設運営を心がけられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝皆さんとリビングで唱和”気は長く”して実践に繋がっていただくよう努力していただいております	地域密着型を意識した施設理念が定められており、利用者が家で過ごしていた時と同じような生活を送れるように努められています。理念は掲示されており、朝礼時に唱和するなど、職員が常に理念を意識した支援の提供が出来るよう努められています。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	日常的には難しいですが、コロナも徐々に収まりつつあるので可能な限り外へ出るよう働きかけております(散歩・図書館等)	コロナ禍の制限下において、従前行われていた積極的な直接交流は実行困難となっておりますが、普段の近隣を中心とした外出機会を増やすことを意識されており、職員同行や近隣への散歩・外出時に地域の方々との交流機会ができるよう配慮されています。	コロナ禍の制限下において、制限されていた直接の交流の再開、拡充が望まれます。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、公民館の活用整備等行っていましたが、コロナ感染防止のため、地域へ積極的な貢献をできる取組が困難です。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍でもあり、報告事項(研修・ボランティア活動)等もなく会議も1度も開催できておりません	コロナ禍の制限下において、通常通りの運営推進会議開催が困難な状況です。普段は、地域の代表や民生委員、地域包括支援センター、等の参加があります。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡させていただき、報告・相談はさせていただきます	町の福祉課との情報共有が図られています。地域包括支援センターとの連携で、地域活動に取り組まれましたが、コロナ禍の制限下において実施が困難な状況になっています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていませんが、玄関の施錠は事故防止のために常にさせていただいております	拘束並びに虐待に関する適正化委員会が2ヶ月に1回開催されており、職員全員が参加することで、資質の向上を意識されています。言葉による拘束にも配慮されています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の時に研修や虐待とは？といった認識の共有を行っております	拘束並びに虐待に関する適正化委員会が2ヶ月に1回開催されており、職員全員が参加することで、資質の向上を意識されています。事例を挙げた勉強会が行われ、職員が自らの支援を振り返る機会にもなっています。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	最近は成年後見制度等の要望がないため、学ぶ機会を持っていません	成年後見制度について、町のパンフレットやDVDを参考にしながら、支援が必要と思われる方への説明に取り組まれています。タイミングをみて、都度、話ができるような関係性の形成に努められています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約締結、説明はさせていただきます。その後不明な点はその都度お尋ねいただくようにしております	契約時には、ご家族からも質問が多い、外出や外泊について特にわかりやすく伝わるような説明を心がけられています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は内容、時期にもよりますが可能な限り運営に反映させていただくように勤めております	コロナ禍の制限下において、面会時等直接やりとりできる機会が制限されているため、電話等による連絡を密にし、利用者の様子を伝えると共に、意見・意向の聴取に努められています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時に一人ひとりに意見を聞いて、反映できることはさせていただいております	2か月に一度、スタッフ会議が開催され、職員意見聴取の場となっています。コロナ対応で、職員の意見を基に運用を変更された事例が確認できました。	

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の関係性を大事にすることで、働きやすい職場環境作りをしています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回、職員の自己評価を行い、面談を行う事によって、資質向上に取り組んでいます。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他福祉事業所との連携で、研修会等に参加し情報共有を行っています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、利用者と家族等から希望や意向を少しでもきけるようにしています。利用者と家族等との希望が異なる場合は利用者の意向にそえるようにしています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意向を聴取しますが、本人意向と異なる場合は本人意向を重視し、家族にも理解を得られるようにしています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをふまえて、事前情報を参考にしながらも、利用者本人の希望に沿う支援を模索しています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の意向を第一に、生活を支えられるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、本人の意向も伝え、本人にとって良くなるように、一緒に考えています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の要望がある時は相手様との調節をさせていただき関係づくりに務めております	コロナ禍の制限下において、積極的な取組が困難な状況ですが、制限緩和に伴い、可能な範囲で、外出や馴染みの場等、できる事に取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々がお互いを尊重できるよう、関係性を考えて、介入できるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も様子をうかがう手紙を出したり、その後の状況や現状を話し合ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の要望をしっかりと受け止めサービス計画に反映させていただいております	職員が日々の支援の中で表出された思いや意向を共有し、できる事から実現できるよう、職員皆で話し合いながら実行されています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人と家族から情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族の意見も聞きますが、本人がしていたこと、希望することを優先しています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、担当スタッフ、スタッフの意見をそれぞれに反映していただきより良いサービスにつなげるように、計画を作成しております	利用者の意向を把握した上で、生活リズムや、以前の暮らしでやっていたことを活かした生活がおくれるよう、職員間で、できる事を話し合い、計画に繋がられています。利用者同士で助け合う環境を意識する等、自立の維持と生きがいへと繋がられるよう努められています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し、気づきや様子を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	畑の活用等、利用者の希望や生きがいを大切にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で、以前のような地域との交流が困難ですが、散歩や外出などできる事で、継続しています。		

自己 評価	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの流れを大切にして希望に沿ったかかりつけ医との関係を築いております	地域の医療資源が限定されている中、家族等の協力も得ながら、利用者が必要な医療の提供が出来るよう努められています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外部の看護師に相談することがあります。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された病状にもよりますが、病院のソーシャルワーカーさんと連絡を密にして情報をいただき退院調整をさせていただいております	入退院時は、医療機関と入院中の継続的な情報共有を図り、入院中並びに退院後の支援に繋がるよう努められています。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化され施設生活が難しくなってきたときは家族様に相談をして次の施設の申し込み、働きかけを協力させていただきながら行ってまいります	重度化の方針は契約時に説明されており、利用者の状態に応じた、対応可能な施設や医療機関への引継が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがあります。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は行政の指導の下、行っております	火災水害についての訓練が行われています。避難場所の確保が困難であるため、垂直避難や近隣の3階建て以上の建物への避難等が検討されています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の尊厳を大切にして優しく接するように務めております	利用者の羞恥心には普段から留意し、職員は日常から親しい関係性の保持に努めながらも立場を踏まえ、強引な支援とならないよう、利用者との距離を縮める工夫にも取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のやりたいこと、やりたくないことを、意向にそえるようにがんばっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方は、利用者のそれまでの暮らしも尊重して、やりたいことが出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれを意識できるように、支えています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の機能、意欲に応じてできることを協力して行っていただいております	利用者が出来る事を、一緒に楽しんでもらえるよう努められています。利用者の嗜好や状態によって量の増減を行い、嫌いなものがある場合には、見た目を工夫したり、軟らかめに食べやすいようにする等の工夫に取り組まれています。行事食では、利用者の意向を尊重した献立を提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量、摂取量を記録し、バランスを考えて対応しています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必用に応じた歯科受診を行い、維持をはかっています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様各々に応じた排泄パターンや機能に応じてパンツ、パットを検証してえらばせていただいております	排泄自立の維持のため、利用者自身ができる動作を尊重した支援に取り組まれており、利用者のペースにあわせた排泄支援に配慮したかわりを大切にされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動で対応しています。連続する場合は医師に相談しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の勤務体制により夜の入浴は難しいですが、拒否のある方は1度声掛けして断られても時間をずらして再度声掛けとうを試みなるべく2日に1回は入浴していただくように務めております	週3回の予定入浴が基本ですが、利用者の意向や体調等を踏まえ、予定入浴以外にも対応し、入浴日以外でも足浴などが行われています。広い浴場や個浴など、利用者にとって楽しめる入浴を心がけ、利用者の意向や場面に沿った入浴支援に努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせています。夜間寝られない場合も対応できる範囲対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の状況がわかるようにしています。担当職員がチェックしています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が得意な事、やりたいことを実現できるようにしています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々に応じて可能な限り戸外(散歩・ドライブ)に出させていただいております	コロナ禍の制限下において、家族支援による外出が促進されています。職員と利用者が1対1でかかわる利用者個別の意向を尊重した、外出の機会が年2回確保されています。制限緩和に伴い、近隣へのドライブや外食の機会拡充が予定されています。	コロナ禍の制限下において、制限されていた外出の再開拡充が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には、金銭管理を行っています。近所へ同行して買い物に行ったりします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナで交流がむずかしいので電話による家族や知人との交流を支えています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の飾りや皆さんで作成した作品を張り付けて季節感を感じていただくように務めております	毎月利用者と作品を造り、装飾されています。利用者の居場所が出来るよう、ソファやテーブル等を複数配置し、施設内全体のスペースを工夫して誘導されています。地域の社会資源や行事の案内等も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性や、一人で過ごせる場所を作るようにしています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはなるべく使い慣れたもの、なじみのものを持ち込んでいただくようにしております	居室には、利用者の思い出のものや、こだわりのあるもの等の持ち込みが行われています。利用者の安全を踏まえた、物の配置に留意されています。利用者固有の空間として、過ごしやすい空間作りに配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができる事を自信が持てるよう取り組んでいます。		